

(社)日本空気清浄協会投稿規定

制定 昭和62年6月10日

改正 平成4年3月25日

改正 平成6年9月20日

改正 平成7年10月24日

改正 平成10年10月27日

1. 目的

本規定は本会機関紙「空気清浄－コンタミネーションコントロール」へ投稿する場合の原稿の内容、取り扱いに関して定める。

2. 投稿者の資格

投稿者の資格は本会会員（会員会社の社員を含む）に限るものとする。連名の場合は会員との共著であることを必要とする。ただし編集委員会で特別に認めた場合、または投稿を依頼された非会員はこの限りではない。

3. 原稿の種類

原稿は会員の自由投稿原稿と、編集委員会による依頼原稿で構成される。原稿の種類は次のとおりとする。

3.1 総説

本会事業に関する挨拶、重要な所感、展望、指針等。

3.2 研究論文

清浄化技術、コンタミネーションコントロールにかかわる著者の新規または独自の理論や実証による学術論文。他の学会誌等へ既に発表されたものは除く。ただし、既発表であっても次の場合は投稿できるものとする。

- 1) 本会が主催する「空気清浄とコンタミネーションコントロール研究大会予稿集」に発表したもの
- 2) 関連学協会論文梗概に発表したもの
- 3) 著者の所属機関における刊行物に発表したもの

ただし、この場合は必ずその旨を明記し、梗概原稿のコピーまたは別刷りを添付しなければならない。

3.3 技術報告

清浄化技術、コンタミネーションコントロールの分野で、理論の応用、補完的な実証により技術的知見が明らかな報告類。

3.4 技術解説

既知の理論や技術を解明し、知識の伝承や応用に資するための解説類。

3.5 講座

比較的大きいテーマを数号にわたって継続的に解説し、講習効果をもつ一連の報告。

3.6 委員会報告

本会が主催する専門委員会で活動の成果を得たものの報告、あるいは暫定的な状況報告等。

3.7 技術集会報告

本会がかかわる学会、技術集会状況、見学記、海外学会への参加報告等。

3.8 規定解説

会員に必要と思われる国内外の技術規定類、重要な関連法令類の解説等。

3.9 海外文献紹介

有益な海外文献の翻訳、解説等。なお、著作権者への承諾は(社)日本空気清浄協会が行う。

3.10 資料、アド・プレゼンテーション

清浄化技術、コンタミネーションコントロールにかかわる新製品、新技術の紹介、装置の使用例等。特に独自に自社新製品、新技術を広報する場合はアド・プレゼンテーションとする。

3.11 随想

会員による自由な感懐、小論等。

3.12 図書紹介

新規で有益と思われる図書類の紹介。

3.13 特集

清浄化技術、コンタミネーションコントロールにかかわるテーマのうち、その重要性、時宜性を考えて、発刊号別に特別集録したものを特集とする。その内容は最新で最適と思われる研究論文、技術報告、技術解説、規定解説等の数編で構成し、そのテーマの全体像と関連知識を解説したものとする。

3.14 会告

本会の活動にかかわる諸報告、行事予定、各種要望、編集補遺等。

3.15 その他

上記の種類に該当しないものはその他として扱い、編集委員会でその取り扱いを決定する。

4. 原稿の執筆及び責任

原稿は別に定めた原稿執筆要領に従って執筆する。また、原稿の内容についての責任は著者が負うものとする。

5. 原稿の受理日

原稿が本会事務局に到着した日を原稿受理日とする。

6. 投稿原稿の採否

投稿された原稿は編集委員会において採否、その種類および掲載時期等を決定する。

7. 査読

投稿された原稿は編集委員会で査読する。ただし、研究論文は別に定める研究論文査読内規による。

8. 校正

著者校正は誤字、字句修正等の程度とし、大幅な変更は行わない。また紙面構成等の事由による編集者校正は許容されるものとする。

9. 原稿料

依頼原稿には所定の原稿料を支払う。ただし、自由投稿原稿はこの限りではない。

10. 著作権と編集著作権

掲載された原稿の著作権は著者に帰属し、出版された本誌については本会が編集著作権を持つものとする。

11. データベース登録

英文のサマリーはJICST（日本科学技術情報センター）など本会が承認した英文データベースに登録されるので、予め著者はこのことを了承の上、投稿するものとする。

12. 特殊組版代

特殊活字、カラー印刷等通常の製作費以外の出費がある場合、投稿者にその実費を請求する。

13. 別刷り

別刷りは有料とする。別刷りの費用は別紙「別刷り料金表」による。別刷りを希望する場合は原稿の送付時に必要部数、カラー印刷の希望の有無などを記入する。ただし、別刷りを希望する場合は50部を単位としてその整数倍の部数とする。

14. 原稿送付と連絡先

原稿は下記宛書留により送付すること。なお、フロッピーディスクでの送付も可能とする。ただし、フロッピーディスクで送付する場合、原稿を添付し、使用したハードの機種名、ワープロソフト名及びバージョン、ならびにファイル名、著者名をフロッピーディスクに記載すること。なお、フロッピーディスクへの原稿の保存はテキスト形式で行う（圧縮処理されたものは不可）。また原稿執筆途中に予定外の事象があったときなども連絡を心掛けるものとする。

〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町 2-7-5 伊藤紅浜町ビ 3 階
社団法人 日本空気清浄協会
TEL. 03-3665-5591 FAX. 03-3665-5593
Email: jacal@a2.rimnet.ne.jp

(社)日本空気清浄協会原稿執筆要領

制定 昭和52年4月1日

改正 昭和62年6月10日

改正 平成4年3月25日

改正 平成6年9月20日

改正 平成7年10月24日

改正 平成10年10月27日

1. 原稿の容量

原稿は本会所定の原稿用紙(25字×20行)またはワープロ原稿を使用する。ワープロ原稿の場合、所定の字数、行数でなくても可能とするが、換算が容易な字数、行数とする。特集、研究論文、技術報告についての原稿の容量は図表、写真等を含め刷り上り10ページ以内とする。その他の原稿の種類については、編集委員会での都度決定する。原稿容量の制限を越えた場合、改めて縮小をお願いする。やむを得ず超過し、編集委員会が認めた場合は1ページにつき投稿料として20,000円を申し受けることとする。なお、1ページの字数と図表の字数換算は下記を参考にする。

刷り上がり1ページ; 2,250字

図表 7.5cm×5cm 1枚; 300字

〃 7.5cm×8cm 1枚; 450字

〃 15cm×8cm 1枚; 900字

2. 原稿の構成

原稿の構成は原稿執筆承諾書、「空気清浄」原稿表紙および本文からなる。

原稿の種類のうち研究論文、技術報告、技術解説及び特集について、原稿表紙に英文の題名、氏名及び所属を併記する。また原稿表紙に200字程度の英文概要と、5～6語程度の日英併記のキーワードを添付する。他の種類の原稿については原稿表紙は和文のみとする。

3. 原稿の作成

3.1 基本

文章は日本語に語体とする。外国文字またはカナ書きを必要とする部分以外は漢字混じりのひらがな書きとする。漢字は当用漢字、かなは新かなづかいとし、数字はアラビア数字を用いる。新しい行の初めは1こまあけて書き、文章の区切りには読点(、)、句点(。)を用い、いずれの場合も1こまを当てる。また行末の句読点は次の行頭に書かず、その行末のこまの欄外に書く。

原稿の種類で研究論文と技術報告は、図表は標題も含めて全て英文とし、本文中に図表番号を引用する場合はFig. 1、Table-1のように英文表記とする。他の種類の原稿について、図表は和文表記を原則とする。

図などをカラー表記する場合は、原稿表紙の備考欄にその旨記載し、予め編集委員会の承諾を得るものとする。

3.2 単位

文中の単位はSI単位とする。

3.3 英文原稿

投稿者の事情により英文を望む場合はあらかじめ編集委員会に申し出をし、編集委員会の許可を必要とする。

4. 図表の取り扱い

図表の総数は10ページ以内の論文で、おおよそ12枚程度を上限とする。図表の字数換算は1.原稿の容量に記載した換算値を参考にする。

4.2 図表の表記法

図表にはその内容を的確に表現する標題をつけ、図の標題は下欄に、表の標題は上欄につける。図(写真を含む)、表にはそれぞれ一貫番号もしくは章ごとの番号をつけ、図1、表1、あるいは図1.1、表1.1のように表記する。図表の本文への挿入場所は、原稿用紙の左欄外に指定する。

4.3 図表のサイズ

図表の大きさは、原則として印刷刷り上がり図表の2倍程度とする。写真は光沢紙を使用し、上下を指定する。また、写真の裏面に図番号と標題を記入する。印刷されたものは特別な場合のほかできるだけ用いず、特に再コピーしたものはさける。

5. 参考文献

5.1 参考（引用）文献の番号

参考文献の番号は引用順に一貫番号とし、本文の引用箇所には右肩に小肩かっこ（'）をつけて番号を記入し、文献名は最後に「参考文献」の項としてまとめる。

5.2 文献の記載方法

(1) 雑誌の場合

著者名、論文の題名、雑誌名、巻・号、ページ、発行年を記載する。著者名が3名以上の場合、「ほか、他、et al」を用いてもよい。

〔例〕

- 1) 吉澤晋、菅原文子：地下鉄駅構内の微生物汚染、空気清浄、23巻3号、p.2 (1986)
- 2) B.Y. Liu, et al: Aerosol Charging and Neutralization and Electrostatic Discharge in Clean Rooms, Journal of Environmental Sciences, Vol.30 No.2, p.42 (1987)

(2) 書籍の場合

著者（編者）名、書名、版（改訂版など必要な時）、巻（1巻のみの場合は不要）、発行所名、ページ、発行年を記載する。著者名が3名以上の場合、「ほか、他、et al」を用いてもよい。

〔例〕

- 3) 早川一也編著：スーパークリーンルームの理論と実際、井上書院、p.40 (1985)
- 4) P.R. Austin, S.W. Timmerman: Design and Operation of Clean Rooms, 2nd Edition, Business News Publishing Co., p.200 (1970)

6. 別刷り

別刷りは有料とする。別刷りの費用は別紙「別刷り料金表」による。別刷りを希望する場合は原稿表紙に必要部数、カラー印刷の希望の有無などを記入する。ただし、別刷りを希望する場合は50部を単位としてその整数倍の部数とする。

キーワードの選定要項

改正 平成7年10月24日
見直し 平成11年5月12日

1. キーワード選定の目的

文献検索を所期の目的のとおりに行うためには対象となる文献が文献検索データベースに正しくインプットされていることが前提となります。このため正しいキーワードの選定が必要となります。

社団法人日本空気清浄協会においても基本キーワードの選定を実施しております。この程平成10年度「JIS Z 8122 コンタミネーションコントロール用語」の改正に伴い一部見直しをいたしました。

機関誌その他の図書の論文、報告書などにはキーワードを記入していただくことになりました。

2. 選定の方法

キーワードの選定は論文全体の内容から推定出来るよう著者が行うものとします。

選定に当っては原則として協会が決めた基本キーワードから数語選定し、更に著者自身により基本キーワード以外から選定出来るものとします。

3. 使用言語

日英両語を併記するものとします。

4. 選定語数

通常5～6語、概ね8語以内とする。

5. 協会は逐次見直しを行い追加できるものとします。

◆コンタミネーション コントロール 基本キーワード◆

〔1〕基本

101. 気体	gas
102. 液体	liquid
103. 真空	vacuum
104. 環境	environment
105. 室内環境	indoor environment
106. 気象・大気現象	atmospheric phenomena, meteorology
107. 粉じん	dust
108. エアロゾル	aerosol
109. 微小粒子	fine particle
110. ミスト	mist
111. 微生物粒子	viable particle
112. 繊維状粒子	fibrous particle lint
113. ガス状汚染物	gaseous contaminant
114. 放射線	radiant rays
115. 臭気	nasty smell, offensive odor
116. イオン	ion
117. 汚染	contamination, pollution
118. 生成機構	mechanism of generation
119. 発じん	dust (particle) generation
120. 拡散	diffusion
121. 吸着	adsorption
122. 感染	infection
123. 静電気	electrostatics
124. 細菌	germ, bacteria
125. アレルギー	allergy
126. 紫外線	ultraviolet rays
127. 純水	DI (deionized) water

〔2〕管理

201. 清浄	cleanness
202. コンタミネーション コントロール	contamination control
203. エアロゾル科学	aerosol science
204. 生体影響	health effect
205. バイオハザード	biohazard
206. 電子工業	electronics industry
207. 半導体工業	semiconductor industry
208. 精密工業	precision industry
209. ファインケミカル工業	fine chemical industry
210. 窯業	ceramics industry
211. 医療施設	medical facility
212. 薬品工業	pharmaceutical industry
213. 食品工業	food industry
214. 農林	agriculture & forestry

215. 実験動物	laboratory animal
216. 労働衛生	industrial hygienics
217. 原子力施設	nuclear facility
218. クリーン搬送	clean carriage
219. ウエハ	wafer
220. 材料	materials
221. 衣服	garment
222. 基準	standard
223. 指針	guidance
224. 安全	safety, security
225. 防災	preventing disaster
226. 計画、設計	planning, design
227. 品質管理	quality control
228. 保守	maintenance
229. 運転	operation
230. 省エネルギー	energy saving, energy conservation
231. 展望	prospect
232. 開発	development
233. データ処理	data processing
234. 教育、訓練	education, training

〔3〕測定分析

301. 測定技術	measuring technology
302. 測定機器	measuring instrument
303. 化学分析	chemical analysis
304. 数学的解析	mathematical analysis
305. 粒子捕集率	particle collection efficiency
306. 圧力損失	pressure loss
307. 気流解析	air flow analysis

〔4〕清浄化装置

401. 清浄化装置	purification equipment
402. 封じ込め	containment
403. ろ過	filtration
404. 洗浄	washing, cleaning
405. 滅菌、殺菌	pasteurization, sterilization
406. クリーンルーム	clean room
407. バイオロジカル クリーンルーム	biological clean room
408. エアフィルタ	air filter
409. HEPAフィルタ	HEPA (high efficiency particulate air) filter
410. ULPAフィルタ	ULPA (ultra low penetration air) filter
411. ケミカルフィルタ	chemical filter
412. ろ材	filter media
413. 活性炭	activated carbon